

日本薬学会

第3回全国学生ワークショップ

「医療への貢献、社会への貢献：これから
薬剤師としてどのように行動するか」

報告書

平成26年6月



会場(クロス・ウェーブ府中)のエントランスホールにて (1日目夜に撮影)

目 次

	ページ
第3回全国学生ワークショップの概要	1
プログラム	3
ワークショップ参加者および班分け	5
「ワークショップ開催の経緯」説明原稿	6
セッション報告	9
第一部「私たちの歩み：過去、現在、そして未来」	10
作業説明	11
グループ報告	12
第二部「薬剤師としての社会への貢献・医療への貢献：私達の目指すもの」	51
作業説明	52
グループ報告	56
第三部「薬剤師として社会、医療に貢献するために」	
セッションⅠ	
「薬剤師として社会、医療に貢献するために必要な能力を身につけることができますか？」	102
作業説明	103
グループ報告	105
セッションⅡ	
「薬剤師として社会、医療に貢献するために：私たちが取り組んで行くこと」	134
作業説明	135
グループ報告	137
参加者印象記	163
参加者アンケート結果	199
日本薬学会第3回全国学生ワークショップ実行委員会	235

第3回全国学生ワークショップの概要

公益社団法人日本薬学会は、平成23年度に薬学教育委員会を設置し、薬学教育のあり方についての議論を行っている。薬学教育委員会の事業には、薬学教育に携わる大学教員や薬剤師のためのFD (Faculty Development)が含まれており、その一環として「薬学教育者のためのアドバンスワークショップ」を開催している。平成23年度の第1回のアドバンスワークショップでは、「学習成果基盤型教育 (Outcome-based education)に基づいて6年制薬学教育の学習成果を考える」をテーマとして開催した。そのワークショップを企画する過程で、学習の主体である学生のニーズを確認する必要性が指摘され、平成23年度に最終学年を迎えた6年制薬学教育の第一期生から、薬学教育に対するフィードバックを受け、全国の薬系大学・薬学部の6年次学生を主たる参加者とする「第1回全国学生ワークショップ」を平成23年8月に開催した。このワークショップでは、6年制薬学教育の成果と課題をテーマに非常に活発な議論が行われ、参加者からは学生ワークショップの定期的な開催が強く要望された。この要望を踏まえて薬学教育委員会において検討した結果、学生ワークショップを継続することの意義が確認され、平成24年8月に第2回全国学生ワークショップが開催された。第2回全国学生ワークショップのテーマは、「6年制教育に望むこと、卒業後に取り組んでいきたいこと」とし、参加者間交流の機会を設けるために、全員が研修施設に宿泊する1泊2日のプログラムとし、第1回の参加者(一期生)との合同討議も行われた。

第3回全国学生ワークショップは、第2回に引き続き、全員が研修施設に宿泊する1泊2日のプログラムとした。ワークショップは、過去2回と同様に、6年制薬学教育の成果と課題を把握するためのものとして企画したが、テーマは「医療への貢献、社会への貢献:これから薬剤師としてどのように行動するか」と表現した。このようなテーマを設定した理由は、参加者全員が6年制薬学教育を受ける立場であるにも拘わらず、各々が目指す進路によっては薬剤師という国家資格を有することが意識されずに、討議が継続される可能性があると考えたからである。それぞれの目指す進路は異なっても、同じ国家資格を有する者として、薬学教育の成果と課題について討議してほしいという意図である。

参加者は、70大学から各大学1名の計70名の6年次生に、第一期生6名と第二期生12名が加わり、現役生は3チーム9グループ、卒業生は1チーム2グループで討議が行われた。

一日目は、受付後に食堂で昼食を済ませた後に全員集合し、その後はチームごとに分かれ、アイスブレイク後に第一部「私たちの歩み:過去、現在、そして未来」を world café の形式で行った。第1ラウンドは「私が薬学部に進学した目的と達成状況」(卒業生は「私が現在の進路を選んだ目的と達成状況」)、第2ラウンドは「私の大学のここが好き」(卒業生「私の職場のここが好き」)、第3ラウンドでは「私の夢と進路:将来の姿を描こう」(卒業生「私の夢とキャリアプラン:将来の姿を描こう」)をテーマとし、進路を決定した当初の思いや大学での学びを振り返り、将来の自分の姿を描いた。world café でチームメンバーの進路選択への思いや将来の夢を広く知ったうえで、第二部では、「薬剤師としての社会への貢献・医療への貢献:私達の目指すもの」を KJ 法により抽出・整理し、さらに島の内容を具体化した。

一日目の討議・発表後は、特別講演として花井十伍氏による「薬学生へのメッセージ」を聴講し、その後は参加者全員による情報交換会が行われた。

二日目は、第三部「薬剤師として社会、医療に貢献するために」を議論のテーマとした。第三部セッション

ンⅠは「薬剤師として社会、医療に貢献するために必要な能力を身につけることができますか？」をテーマに、一日目のKJ法で抽出・整理したプロダクトから島を選び、身についたもの、足りないもの、足りない理由について検討した。第三部セッションⅡは、「薬剤師として社会、医療に貢献するために：私たちが取り組んで行くこと」をテーマとして、第二部、第三部セッションⅠのプロダクトも考慮しながら、これから自分達が行くことをまとめた。

6年次生の発表後、卒業生の発表が行われ、一期生と二期生の参加者から三期生へのメッセージが伝えられた。狭間研至氏を講師に迎えた教育講演の後に、「医療への貢献、社会への貢献：これから薬剤師としてどのように行動するか」をテーマに、全員参加による総合討論が行われた。

第一部の報告書は、グループに2名いるテーブルマスターにそれぞれ作成していただいた。第二部、第三部セッションⅠ、第三部セッションⅡの報告書は、グループ内の各セッションの報告書担当者に作成していただいた。また、参加者全員にワークショップの印象記を提出していただいた。本報告書冊子を作成するにあたり、様式を統一するために、参加者に提出いただいた報告書と印象記の書式や図表等の一部を改変したが、どうかご了承いただきたい。

本報告書を通じて、六年制薬学教育の第三期生の想いや要望を、薬学教育に関わる人に広く知っていただきたいと願っている。

以上

日本薬学会第3回全国学生ワークショップ

「医療への貢献、社会への貢献：これから薬剤師としてどのように行動するか」

主催 : 公益社団法人 日本薬学会
開催日時 : 平成25年8月10日(土) 12:00~11日(日) 15:30
開催場所 : クロス・ウェーブ府中(〒183-0044 東京都府中市日鋼町1-40 TEL 042-340-4800)
会場 : クロス・ウェーブ府中3階研修室

プログラム

(4P: 全体会議、P: チーム討議、S: 小グループ討議)

第1日目: 8月10日(土)

11:30~ 受付
12:00 昼食
12:50 4P 配布物の確認、連絡事項 5分
12:55 4P 開会のあいさつ 5分
松木 則夫(公益社団法人 日本薬学会 教育委員会 委員長)
丸岡 充(文部科学省 高等教育局医学教育課 薬学教育専門官)
13:00 4P ワークショップ開催の経緯 10分

アイスブレイク「チームのメンバーを知ろう」

13:15 P 作業説明 5分
13:20 P 他己紹介 20分

第一部「私たちの歩み: 過去、現在、そして未来」

13:40 P 作業説明 world café 15分
13:55 P 討議(ラウンド) 80分

テーマ1 「私が薬学部に進学した目的と達成状況」
(卒業生「私が現在の進路を選んだ目的と達成状況」)
テーマ2 「私の大学のここが好き」
(卒業生「私の職場のここが好き」)
テーマ3 「私の夢と進路: 将来の姿を描こう」
(卒業生「私の夢とキャリアプラン: 将来の姿を描こう」)

15:15 P コーヒーブレイク

第二部「薬剤師としての社会への貢献・医療への貢献: 私達の目指すもの」

15:30 P 作業説明 KJ法 10分

15:40	S	SGD	120分
17:40	P	発表、総合討論	30分
18:15	4P	卒業生のプロダクト発表(5分×2班)、総合討論10分	20分
18:35	4P	特別講演 花井 十伍(ネットワーク医療と人権<MERS>)	40分
19:15	4P	1日目のアンケート	10分
19:30		情報交換会	
21:30		アドバンスト情報交換会	
24:00		談話室の使用終了	

第2日目:8月11日(日)

8:30	4P	1日目アンケートの結果報告	5分
------	----	---------------	----

第三部「薬剤師として社会、医療に貢献するために」

第三部セッションI

「薬剤師として社会、医療に貢献するために必要な能力を身につけることができますか?」

8:35	4P	作業説明	10分
8:45	S	SGD	90分
10:15	P	発表、総合討論	30分
10:45	P	コーヒープレイク	15分

第三部セッションII

「薬剤師として社会、医療に貢献するために:私たちが取り組んで行くこと」

11:00	P	作業説明	5分
11:05	S	SGD	115分
12:00		昼食	
13:00	4P	発表	45分
13:45	4P	卒業生の発表	15分
14:00	4P	教育講演 狭間 研至(ファルメディコ株式会社)	45分
14:45	4P	総合討論「「医療への貢献、社会への貢献:これから薬剤師としてどのように行動するか」	30分
15:15	4P	閉会のあいさつ 日下部 吉男(文部科学省 高等教育局医学教育課) 松木 則夫(公益社団法人 日本薬学会 教育委員会 委員長)	5分
15:20	4P	2日目アンケート、総合評価アンケート	10分
15:30		解散	

ワークショップ参加者および班分け

チーフタスク: 亀井美和子

I
チ
ー
ム

A班	
上田 大介	立命館大学
大塚 雄天	昭和大学
黒澤 卓	北海道大学
末釜 季美子	広島大学
高坂 祥菜	高崎健康福祉大学
手島 一也	神戸学院大学
中川 有衣	北陸大学
吉田 健	第一薬科大学

タスクフォース: 高橋 寛

B班	
伊藤 智代	金沢大学
大森 紀和	岩手医科大学
岡部 由幸	明治薬科大学
久米 美汀	東邦大学
佐藤 友香	徳島大学
澤本 篤志	松山大学
志田 美春	神戸薬科大学
藤戸 淳夫	鈴鹿医療科学大学

タスクフォース: 橋詰 勉

C班	
青砥 孝道	新潟薬科大学
赤川 善彦	城西国際大学
植田 伊津美	武庫川女子大学
江崎 舞	九州大学
西谷 直也	京都大学
根本 佳奈	国際医療福祉大学
長谷川 彩薫	北里大学
安原 直紀	就実大学

タスクフォース: 安原智久

チーフタスク: 河野武幸

II
チ
ー
ム

A班	
井上 知哉	長崎国際大学
高田 志穂	福山大学
高橋 晴也	武蔵野大学
土屋 真奈美	城西大学
長塚 健太	北海道医療大学
松村 祥平	富山大学
大和 幹枝	近畿大学
吉田 彩綾沙	愛知学院大学

タスクフォース: 平田 收正

B班	
大沼 裕樹	東京大学
音羽 亮	東北薬科大学
春日井 悠司	名城大学
金本 和磨	広島国際大学
小西 智洋	大阪大谷大学
平位 祐実	熊本大学
平山 亜都	帝京平成大学
南谷 怜亜	京都薬科大学

タスクフォース: 鈴木 匡

C班	
青山 剛一	日本大学
井元 優美	同志社女子大学
柏原 道志	静岡県立大学
櫻田 梨花	青森大学
白石 彩奈	徳島文理大学
中山 貴裕	東京薬科大学
真鍋 洋平	岡山大学

タスクフォース: 川崎 郁勇

チーフタスク: 木内祐二

III
チ
ー
ム

A班	
阿部 なつき	北海道薬科大学
岡本 侑子	崇城大学
佐野 賢太郎	福岡大学
嶋野 仁	日本薬科大学
中島 直彦	岐阜薬科大学
東本 祐佳	大阪大学
水野 翔童	徳島文理大学香川
安本 ひかり	慶應義塾大学

タスクフォース: 徳山尚吾

B班	
大淵 絢子	姫路獨協大学
坂口 佑一郎	長崎大学
杉山 紘一	星薬科大学
中曾根 正皓	東北大学
中谷 静香	千葉科学大学
西村 誠晃	帝京大学
福田 葉月	摂南大学
松岡 由紀	金城学院大学

タスクフォース: 賀川義之

C班	
青木 傳	九州保健福祉大学
飯塚 康人	いわき明星大学
日原 章詔	兵庫医療大学
堀之内 渉	名古屋市立大学
三浦 広美	昭和薬科大学
湯澤 薫	東京理科大学
和田 智予	大阪薬科大学

タスクフォース: 塩田 澄子

チームタスク: 入江徹美、中村明弘

IV
チ
ー
ム

一期生	
小川 隆弘	北里大学病院
嶋田 光希	アステラス製薬
間 祐太郎	城西大学大学院
横山 正人	静岡済生会総合病院
吉田 啓太郎	九州保健福祉大学大学院
渡邊 なお子	館林厚生病院

二期生	
大柿 景子	自治医科大学付属病院
円入 智子	ウエルシア関東
小野寺 祐里香	日立製作所日立総合病院
川上 遥	京都薬科大学大学院
菊池 光太	盛岡赤十字病院
黒岩 亮平	横浜市立みなと赤十字病院
小嶋 崇弘	スギ薬局
小林 絢子	シミック
相良 篤信	星薬科大学大学院
志田 拓顕	浜松医科大学医学部附属病院
杉村 好彦	中外製薬
武永 理佐	旭化成ファーマ
山本 天心	千葉大学大学院専門法務研究科
吉川 望美	東京大学医学部附属病院

タスクフォース	
入江 徹美	熊本大学
賀川 義之	静岡県立大学
亀井 美和子	日本大学
川崎 郁勇	武庫川女子大学
木内 祐二	昭和大学
河野 武幸	摂南大学
塩田 澄子	就実大学
鈴木 匡	名古屋市立大学
高橋 寛	佐野薬局
徳山 尚吾	神戸学院大学
中村 明弘	昭和大学
橋詰 勉	京都薬科大学
平田 收正	大阪大学
安原 智久	摂南大学

講師	
花井 十伍	ネットワーク医療と人権
狭間 研至	ファルメディコ

ディレクター	
松木 則夫	薬学教育委員長

行政	
丸岡 充	文部科学省
日下部 吉男	

オブザーバー	
横山 祐作	日本薬学会
須田 晃治	薬学教育協議会

事務局	
土肥 三央子	日本薬学会

**日本薬学会
第3回全国学生ワークショップ**

ワークショップ開催の経緯

実行委員長 亀井美和子

2013年8月10日(土)
クロスウェーブ府中

公益社団法人日本薬学会 The Pharmaceutical Society of Japan



日本薬学会 全国学生ワークショップ

日本薬学会
第1回全国学生ワークショップ

「6年制一期生として薬学教育に
関心すること」

報告書
2011年8月

**第1回
2011年8月**

日本薬学会
第2回全国学生ワークショップ

「6年制薬学教育に関心すること、
卒業後に取り組んでいきたいこと」

報告書
2012年8月

**第2回
2012年8月**

過去2回のテーマ

第1回
2011年8月4日 大阪大学中之島センター
62名(62大学)

「6年制一期生 **1泊2日に** 教育に望むこと」
もっと交流の場がほしい!

第2回
2012年8月8～9日 クロスウェーブ府中
67名(67大学)

「6年制薬学教育に望むこと、
卒業後に取り組んでいきたいこと」

薬学部6年制

2013年8月17日 発表新聞

薬学部6年制 薬学教育の改善・充実へ、薬科分離

六年制移行による臨床重視の薬学部教育が、薬剤師・医療人としてのプロ意識を植え付け、質の高い医療につながることを期待したい。

2013年8月17日 発表新聞

中央教育審議会「薬学教育の改善・充実（答申）」

- 医療技術や医薬品の創製・適用における科学技術の進歩、医薬分業の進展など、薬学をめぐる状況が大きく変化してきている中、
薬剤師を目指す学生には、
基礎的な知識・技術はもとより、
豊かな人間性、高い倫理観、医療人としての教養、課題発見能力・問題解決能力、現場で通用する実践力などを身につけることが求められていること、

中央教育審議会「薬学教育の改善・充実（答申）」

- このため、各大学において**教養教育を充実**しつつ、**モデル・コアカリキュラムに基づく教育**を進めるとともに、特に臨床の現場において相当期間の**実務実習**を行うなど、**実学としての医療薬学**を十分に学ばせる必要があること、
- 各大学がモデル・コアカリキュラムに基づく教育に加えて、**それぞれの個性・特色に応じたカリキュラム**を編成することが必要であること、
- こうした様々な要請に応えるには、薬学教育の現状の修業年限（4年間）は薬剤師養成には**十分な期間とは言えず、今後は、6年間の教育が必要**であること、が提言されている。

モデル・コアカリキュラム

薬学教育モデル・コアカリキュラム	
A ヒューマニズム	C11 健康
B イントロダクション	C12 環境
C1 物質の物理的性質	C13 薬の効くプロセス
C2 化学物質の分析	C14 薬物治療
C3 生体分子の姿・かたちをとらえる	C15 薬物治療に役立つ情報
C4 化学物質の性質と反応	C16 製剤化のサイエンス
C5 ターゲット分子の合成	C17 医薬品の開発と生産
C6 生体分子・医薬品を化学で理解する	C18 薬学と社会
C7 自然が生み出す薬物	実務実習モデル・コアカリキュラム
C8 生命体の成り立ち	(1) 実務事前実習
C9 生体をミクロに理解する	(2) 病院実習
C10 生体防御	(3) 薬局実習

6年制薬学教育を支える機関、団体等



文部科学省、厚生労働省
 日本薬学会
 全国薬科大学長・薬学部長会議、国公立大学薬学部長（科長・学長）会議
 日本私立薬科大学協会
 薬学共用試験センター、薬学教育評価機構
 薬学教育協議会、日本薬剤師研修センター
 日本薬剤師会、日本病院薬剤師会ほか

先生たちも・・・

日本薬学会 薬学教育者のためのアドバンスワークショップ

- 第1回 2011年12月
- 第2回 2012年11月
- 第3回 2013年10月(予定)

新しい学習方法を
教員自ら体験

薬学教員のWS

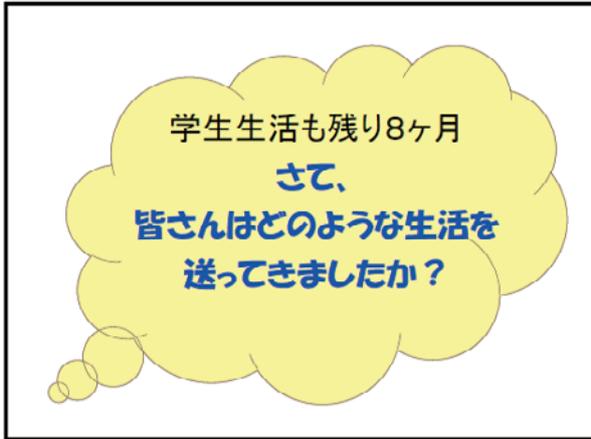


6年制薬学教育プログラム



薬剤師の資格をもつて、それぞれの進路へ・・・





第3回全国学生ワークショップ

日時：2013年8月10～11日（1泊2日）
場所：クロスウェーブ府中
参加者：
6年次生 70名（70大学）
3チーム(P) 9班(S)
卒業生 一期生 8名、二期生 11名
1チーム(P) 2班(S)
計 4チーム(P) 11班(S)

本WSのプログラム概要

10日(土)	11日(日)
13:40 第一部	8:35 第三部 セッションI
15:30 第二部	10:15 発表
17:40 発表・全体発表	11:00 第三部 セッションII
18:35 特別講演	13:00 全体発表
19:30 情報交換会	14:00 教育講演
23:30まで	14:45 総合討論
	15:30 解散

ワークショップのテーマ

医療への貢献、社会への貢献：
これから薬剤師として
どのように行動するか

今日・明日は仲間と共に
大学生活を振り返り
薬学教育について存分に
情報や意見を交換して下さい

ワークショップのルール

- お互いに名前を呼びましょう：
○○さん、○○くん → 名札は見える位置に
- タスクフォースの大学教員も“先生”でなく“さん”で呼んで下さい
- プレゼン中にメモをとる必要はありません
- 集合時間を守りましょう
- 携帯電話の電源は切っておきましょう。

**大学を代表する必要はありません！
参加者同士の意見交換を積極的に楽しんで下さい。**

では
各チームに分かれて
ワークショップの開幕です！